

〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1番地 Tel 052-872-3452 Fax 052-872-1531
Mail: institute@hum.nagoya-cu.ac.jp HP: <http://www.hum.nagoya-cu.ac.jp/~institute>

● 新研究所長ご挨拶

この4月から福吉所長を引き継いで、人間文化研究所の所長をつとめることになり、一言ご挨拶させていただきます。人間文化研究所は教育研究の一層の充実と地域社会への貢献を目的として、2005年4月に設立されました。私が研究科長(学部長)のとき「法人化」準備の一環として研究所設立を提起しましたので、この研究所にはひとときわ愛着があります。研究所は設立から3年間、「人間・地域・共生」をキーワードにして、人文社会科学の諸分野から学際的な研究を進めてきました。

主な研究活動は第1にプロジェクト研究の推進であり、その成果をシンポジウムや講演会の場で発表してきました。第2に共生や福祉を特集テーマとした年報、情報誌「ニュースレター」の発行です。第3に昨年からはじめた栄の丸善4階の喫茶ルームを会場にした「Human & Social サイエンス・カフェ」です。第4に教員と院生、市民との研究交流の場としての「マンデーサロン」です。

設立当初は研究所に掲げられた大きな看板に対して、「看板倒れ」を心配する向きもありましたが、しだいに活動の幅を広げ内外に存在感を高めつつあります。今後さらにプロジェクト研究を推進するとともに、「知との出会い」「人との出会い」「年代を超えたつながり」の広場としていきたいと考えています。さしあたりの新企画は、院生や修了生、教員が気楽に研究交流・情報交換する「トーキング・カフェ」です。

人間文化研究所がますます存在感を高め、持続的に発展していくために、皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。(4月1日 人間文化研究所長 山田 明)

● 「人間文化研究所年報 第3号」いよいよ刊行!

第3号の特集は「福祉」です。主な内容は「特集に向けて」として福吉勝男「(公共福祉)志向の思想 - その現実化の新たな試み」、堀江孝司「福祉イメージの政治」、さらに2部にわたり次の論文が並びます。

第1部「地域社会と福祉」

滝村雅人「障害児の生活習慣獲得と保護者への支援を考える」、吉村公夫「暮らしの場としての地域社会と社会福祉」、奥平俊子「子育て支援と保育士の役割 考」

第2部「自立に向けて」

石川洋明「名古屋市青少年の自立状態と自立志向の概要」、久保田健市「若者の自立と居場所 名古屋市『青少年

の自立』調査より」、安藤究「親族・友人・近隣交際と自立志向・自立の現状」、藤田栄史「次世代育成・両立支援のゆくと雇用システム・福祉レジームの転換」

このほか研究余滴やシンポジウム・講演会報告、研究所共同研究プロジェクト年間活動報告を掲載。ぜひご一読を。

年報第3号刊行によせて

ようやく、研究所年報第3号をお届けできました。私の予定では、3月下旬発行だったのですが・・・、発行が遅れたこと、お詫び申します。

表紙と特集の扉には、私が沖縄で撮った写真を使いました。石垣島の盆アンガマア、粟国島のヤガン折目、それに宜野湾のカー(湧き水)です。いずれも、「福祉」にふさわしいという独断によります。レイアウトも前二号から少し変えました。ページ数は減りましたが、内容は濃い、と思っています。ご感想など、お寄せいただければ幸いです。

阪井芳貴(人間文化研究科教授)



Human & Social サイエンス・カフェ



人間文化研究所長に就任して1ヶ月が経過した。3年前に設立された研究所の持続的発展をめざして、とにかく継続事業を持続させることに力を注いでいる。昨年6月から、栄の丸善4階カフェにて「サイエンス・カフェ」を第3日曜日午後3時から開催している。今年度のトップバッターを担当し、「公共政策と財政とまちづくり」というテーマで話をした。

日頃の教室での講義とは勝手が違い、最初はカフェの雰囲気ですこし戸惑った。自己紹介をかねて研究の歩みを話しているうちに、いつもの「調子」がでてきた。宮本憲一『公共政策のすすめ』を使って日本型公共政策について、公共事業や医療・福祉などから問題提起した。そして人口減少時代のまちづくりについて、名古屋を例にして「持続可能性」と関わらせて課題を示した。

丸善は広小路通りにある。それで「広小路ルネサンス」事業、例の道路問題で話を締めくくった。ちょうど1時間の話のあと、参加者との質疑を50分ほど行った。話題は広小路問題に集中して、事業の進め方や意義などについて厳しい質問や意見がつついた。財政危機や医療福祉の切り詰めのなかで、行政の優先順位やまちづくりのプロセスについて意見が集中した。この模様については、当日参加した院生の感想も参照されたい。

人間文化研究所では、名古屋都心での「サイエンス・カフェ」を今後も持続的に開催していく予定である。できるだけ事前予約して、ぜひご参加を。

山田 明(人間文化研究科教授)

第11回 4月20日(日)

テーマ: 「**公共政策と財政とまちづくり**」

講師: 山田 明教授(人間文化研究科教授)

今回のサイエンス・カフェの講師である山田明先生のもと、名古屋市立大学大学院で学ぶことになったのはこの春からである。私の研究テーマは、まちづくりや地域再生という分野である。その中でも、まちのシンボルというべき存在に関心がある。

サイエンス・カフェの後半、広小路通の改修の話題になり、参加者の中からも賛否の声が挙げられた。その中で、広小路通には核となる存在がないために、歩道を整備しても人

が集まらないのではないかという意見が出た。私の考え方に当てはめるとシンボルの不在といえる現象である。しかし、歩道が整備され、せせらぎが流れ、オープンカフェが洒落た雰囲気をつくり出すことになれば、これが広小路通のシンボルとなることは十分に考えられる。そのために、莫大な予算と時間を費やすことになり、その費用対効果を疑う声も少なくはない。反面、現代のまちづくりにおいて、癒しの空間を演出することも非常に重要なテーマであり課題でもあるといえる。

三十路を越え、縁という不思議なつながりを大切にしようと思うようになった。そのつながりも、先生のお話にあった人と人のネットワーク、つまりソーシャルキャピタルの一部ではないかと改めて感じた。そしてそれこそが、今後のまちづくりを担っていく力になるのではないだろうか。

平野誠悟(同研究科博士前期課程)

今後の開催予定

5月18日「日本人の英語はどこまで通じるか」宮田学教授

6月15日「不登校:理解と対応」奥平俊子准教授

7月20日「カントと人間 剛と柔」森哲彦教授

8月24日「自助・共助・公助の福祉公共哲学」福吉勝男教授

● トーキング・カフェ

4月からの新企画として、「トーキング・カフェ」を毎月第2・第2木曜日の15時から18時まで研究所で開催しています。研究領域の違う院生や教員と出会う、つながりを作る「場」として企画されたものです。担当は研究科修了生で研究所特別研究員の重原淳子さんなどです。第1回目には3人の院生と2名の教員などが参加して、研究交流・情報交換を行いました。ぜひ院生に声をかけてください。

5月は8日と22日、6月は12日と26日です。

● マンデーサロン

しばらくお休みしていましたが、5月から再開します。5月は19日(月)16時半から研究所にて、今年度「プロジェクト研究」のプレゼンテーションを行います。

6月以降も、原則として第3月曜日に開催する予定です。報告希望者や報告推薦者など、サロンへの提案をお待ちしています。

編集後記

2008年度最初のニュースレターをお届けします。

年報刊行にあわせて、急ぎよ刊行することにしましたのでスリムになりました。今後もボリュームよりも、なるべく回数を多くして発行していく予定です。

今年度もよろしくお願ひします。(や)